



センター通信

〒 123-0873 東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03)3856-2728 FAX (03)5939-7880
URL www.wfc.or.jp

理事長交代のご挨拶

この度の社会福祉法の改正及び、私自身も80歳を超えましたことを契機に、理事長職を退任致しました。この間、多くの皆様に色々とお世話に預かりましたことに対し、紙面を拝借して御礼申し上げます。

長年の懸案であった新宿寮の建て替えは、東日本大震災の影響で着工が2年遅れた上、予定をしていた事業所内保育所の設置を諸般の事情により諦めざるを得ませんでした。3階建ての新寮舎を建築できたことは、大きな喜びでした。創始者長谷場の名前を冠し、長谷場新宿寮として、吹き抜けの寮舎で広い空間を持てるようになり、子ども達1人1人の場所を確保出来ることにより、以前のような、いがみ合いが減ったとも聞いております。

又、清周寮も昨年、暁星学園ほきまホームと共に建て替えが、終わりました。長谷場新宿寮と同様に吹き抜けの2階建てですが、木造建築で木のぬくもりを感じられる女子寮らしい建物となりましたことを嬉しく思っております。

年月をかけて多くの方々と職員を交えて相談をし、子ども達にとって住みやすい上に、職員の職場環境も良くしたいと考えた結果の建て替えでした。この様な事業が行えたのは、行政は勿論ですが、多くの心ある支援者のお蔭でございます。改めて厚く御礼申し上げます。

2005年に財団法人青少年福祉センターと社会福祉法人清友会が前の理事長児玉惟継氏によって社会福祉法人青少年福祉センターとなりましたことは皆様のご記憶にも新しいことと思います。一緒になったことで、今まで別々に、動いていたことが多かった事業所が、1つに纏まるようにもなりました。常務理事として、積極的に職員達と関わり、1つの法人として纏まるように努めてきた荒船旦子氏が、理事長として手腕を発揮して頂けるのを楽しみにし、皆様の変わらぬご支援をお願いして、退任のご挨拶とさせていただきます。

山下 眞一郎

この度、理事長に就任致しました荒船旦子でございます。2001年より、財団法人青少年福祉センターの評議員をお引き受けし、2005年社会福祉法人青少年福祉センターとなってからは、理事・常務理事を10年余努めさせて頂き、今回、理事長をお引き受け致しました。

1958年、戦災孤児3万人と言われた時代に、長谷場先生が就労支援の為の施設を立ち上げられてから60年近くが過ぎております。物質的には豊かになった日本ですが、残念ながら被虐待児3万人と言われ、親がいながら親元で暮らせず児童相談所経由の入所申し込みは、後を絶ちません。

創設当初数名の子ども達でスタートした当法人も、今では100名近くの子ども達をお預かりし、これまでに1000人を大幅に超える子ども達を世に送り出して参りました。その多くは家庭を築き、大きく成長し、それぞれに社会で活躍貢献しています。家庭的雰囲気の中で子どもの成長を見守り、1人1人の個性を見だし指導する職員がどれほど大変な仕事か、施設長はもとより職員も日夜努力し、日々挑戦している姿を勉強して参りました。

創設当初“憩いの家”としてスタートした時代、亡き母麻生和子が神様のお導きで長谷場先生と巡り会い、先生のお手伝いを天国に旅立つまで致しておりました。社会に貢献する大切さは、私共子ども達に残してくれた大きな遺産です。今回、理事長をお引き受けするのも母が残してくれた大きな責任ある仕事の1つで、母から託された宿題を私なりに果たして行きたいと思っております。幸い当法人には優れた経験の施設長始め職員に恵まれ、同時に行政よりの力強いサポートを頂き、多くの支援者に支えられて今日を迎えております。皆様のお力を拝借して、当法人に関係する全ての方々が、関わって良かったと思える様に、微力を尽くして参りますので、よろしくお願い申し上げます。

荒船 旦子

共同生活援助ノエル 閉鎖

清周寮の元職員が、自立援助ホームから直ぐには独り立ちできない精神に障害を抱える利用者の為に立ち上げたノエルです。その後、法人の事業として、障害を精神から知的に変更して、通過型の共同生活援助事業として運営して参りました。彼女たちが一生に1度は、アパートにて1人暮らしが出来るようにしたいという思いで、1人1人のニーズに合わせて世話人が寄り添ってきました。洗濯機をきちんと使いこなせると思っていた1人は、洗剤と柔軟剤を2回に分けて洗濯をしているのがわかり、使い方を教えることにより、無駄な作業を省け、節約にも役立ちました。又、好物と思っていた料理はそれだけが彼女が知っている料理名だと言うこともノエルに来て判明しました。他にも1人1人にきめ細かく寄り添うことにより、自立への道を20歳では



難しかったのが、その後数年をノエルにて過ごすことにより、独り立ちをしていきました。障害度が1か2という軽度の場合には、障害があるとは良く判らず、仕事場でも苦勞をする事が多いのが現実です。周囲の理解と自身の努力により、通常よりも時間がかかりながらも、1人暮らしの自由と楽しさを経験できるようになりました。

本来ならこのような事業を継続していくべきですが、残念ながら行政からの補助金等は少額で、篤志家よりの寄付金で運営をして参りましたが、最後の2名が退所し、4月末日を持って閉鎖致しました事をご報告致します。ご協力下さいました皆様に心より御礼申し上げます。

第9回青少年福祉センター成人式 開催

毎年恒例となりました青少年福祉センター成人式を、1月14日(土) ホテル・ラングウッドにて執り行いました。当日は、新成人45名中16名が晴れ姿で集い、ご来場の皆様に祝福されました。諸般の事情により、一緒に過ごすことができなかったご家族の方や担当福祉司、当法人に入所する以前の関係者など多くの方が出席され、彼らの凛々しい姿に感激されていました。新成人一人一人が、壇上で挨拶を述べたおりに、感謝の言葉と共に、しっかりと今後の抱負も述べていました。退所後も社会の荒波にも負けずに自分を律し、成長している姿を見て私共も嬉しく、励まされました。人生の大切な節目でもある成人式をこの様に行えるようになりましたのも、ご協力下さいました皆様方のお蔭と、感謝申し上げます。



成人式にご協賛くださいました企業・団体の方々に感謝申し上げます。

敬称略・順不同

一般社団法人 いけばなインターナショナル東京支部
国際ソロプチミスト東京-広尾
国際ソロプチミスト東京-弥生
東京西北ロータリークラブ
株式会社 エキップ
株式会社 カタログハウス
株式会社 カネボウ化粧品
京王プラザホテル
京都きもの友禅 株式会社
株式会社 コスモス
株式会社 シービージャパン

成和 株式会社
ゼブラ 株式会社
一般財団法人 まちづくり地球市民財団
株式会社 タカキュー
株式会社 似鳥工務店
マドラス 株式会社
株式会社 丸昌
株式会社 守屋
株式会社 吉田
株式会社 ロフト
ホテル ラングウッド

児童養護施設 暁星学園のようす (定員 男女 36名)

暁星学園では、今年度 8 名の児童が自立を迎えようとしています。就職を考えている児童、専門学校や大学への進学を考えている児童、高校を継続できず進路を考えている児童など、進路はひとそれぞれです。なかには、特別支援学校に通い自立を目指している児童もいます。特別支援学校では、6月と10月に現場実習といって、一般企業や福祉作業所にて実際の仕事を体験する職場体験型の実習があります。期間は2週間ほどで、2年生と3年生が行います。6月に行われる現場実習において、企業側から良い評価を得られると10月の実習終了後内定をいただける場合があります。しかし、6月の実習で評価が得られないと10月の実習は、実習先を変更して行わなければなりません。10月の実習で就職先が決まらなると、退所先を探すことも困難になります。特別支援学校卒業後の退所先は、知的障がい者のグループホームや通勤寮が一般的ですが、いずれにしても就職先が決まっていることが前提になるからです。通勤寮は施設の数が少なく、入所する場合、数ヶ月間部屋が空くのを持たされることもあります。さらに特別支援学校では、アルバイトが原則禁止されており、退所までに自立資金を用意することが困難になります。知的障がいという自身のハンディキャップに加えて、社会的なハンディキャップを抱えている児童の自立は大変困難ですが、そういった児童の入所は増え続けています。暁星学園は、障がいを抱える児童の自立支援も行っておりますので、皆さまからのご支援よろしくお願いたします。



児童養護施設 あけの星学園のようす (定員 男女 20名)

あけの星学園は、新宿区という土地柄、生活の中で自然と触れ合う機会が少ない施設です。町会で開催しているお花見やホテル鑑賞会に招待して頂き、子ども達と毎年参加しています。今年のゴールデンウィークは、2フロア、1ホームがそれぞれ宿泊行事に行ってきました。男子は館山で、いちご狩りと海釣りをしました。本園女子は、伊豆でバーベキューをし、クラフトアートを作ってきました。こでまりホームは箱根で、色々な種類の温泉に入る行事をそれぞれ楽しんできました。夏には、湖でウェイクボードを体験する計画をたてています。

今年は、高校1年生が8名います。そのうち6名が、あけの星学園で高校受験をしました。皆、それぞれ試験を乗り越え、希望する高校に入学することができました。特にA君は、不登校の時期があった為、模試でもずっと、良い結果が出ませんでした。しかし、毎日のように塾に通い、合格が決まった時の笑顔は忘れられません。高校で初めての試験では、クラス上位の成績を収めました。高校3年生も6名おり、中でもHさんは、高校入学後、学校に馴染むことができず、色々悩み、職員と話し合いを重ねて現在の高校に編入しました。また、同時期に始めたアルバイトを現在も継続し、将来は服飾系の道へ進むために、勉学にも励んでおり、好成績を収めております。子ども達が毎日充実した生活が送れるよう、職員一同支援していきたいと思っております。



自立援助ホーム 長谷場新宿寮のようす

(定員 男子 15名)

今年度も長谷場新宿寮では、15名程の寮生が仕事と生活を両立しながら自立を目指しております。在寮生によって寮内の雰囲気も変わりますが、元気に出勤する姿は今も変わらず清々しいものです。

皆が心地よい生活を目指す為、長谷場新宿寮では寮生ミーティングを毎月行っております。内容は、日々の就労の功績に対する表彰や、寮内の使い方に関する話し合いを行っております。初めての慣れない仕事に対しても、皆の応援が明日への活力になっています。

ジメジメした梅雨に続き、これから暑い夏を迎えることとなりますが、長谷場新宿寮では、暑さ以上に熱い行事を今年も実施しております。仕事で忙しい寮生の為に、余暇の充実にも力を入れています。行事費用の一部は寮生が負担しており、皆で作上げる意識が充実した行事へと繋がっております。毎年定番としては、ゴールデンウィークの釣り・東京散策・富士急ハイランドといった行事を行っておりますが、今年度は新たな試みも多く行いました。新たに寮内設置したプロジェクターを使用しての映画鑑賞会や、埼玉県のレストランでトランポリンを行いました。更に、ボランティアの皆様からのご厚意により、本場のイタリアンを作ってもらいました。体験したことのない未知の味覚に皆が自然と笑みを浮かべていました。

寮生活は生涯の中で一瞬かもしれません。しかし、次世代の担い手となる彼らを職員は心から応援します！



自立援助ホーム 清周寮のようす

(定員 女子 15名)

昨年10月に開始した、新寮舎での運営も半年がたちました。現在、正社員4名、高校生3名、大学生2名を含む12名が自立や夢に向かって生活しています。

昨年度は清周寮、ほきまホーム共に移転中であつた為、実施できなかった合同での防災訓練とBBQ行事を行いました。新寮舎になってからの避難方法や、地域の避難場所の確認、消火訓練の実施等を行いました。防災訓練後は、中庭にあるウッドデッキにてBBQを行い、お互いの寮生の交流を図りました。雰囲気も良く、子ども達も喜んでいました。また、ほきまホームで以前より行っていた野球行事に清周寮の児童も参加させてもらうなど、今後も協力しながら、子ども達の支援やリフレッシュに繋げていきたいと考えています。

その他にも、東京善意銀行からの寄付を活用し、Jリーグの観戦行事も行いました。日ごろ、仕事や学校で疲れている児童の気分転換と、自立後にはなかなか行けないような所に連れて行ってあげたいという思いから実施しました。行事当日が真夏日であつた為、体調が心配でしたが、気温よりも熱い試合を観戦できたことで、子ども達も満足しており、興味のなかったサッカーに対し、興味を持ってもらう事が出来ました。

自立後に、仕事中心の生活になりがちなお子が多い為、今後も自立後に楽しみが出来るような行事を行っていただくと考えています。



自立援助ホームおうぎ寮のようす

(定員 男女6名)

平成21年から開催しているおうぎ寮祭も今年で6回目となりました。帰って来てくれる卒業生やその家族、友達も年々増えていき、その分迎える私達としても準備に力が入ります。特に今年は、私達の活動に理解を示し、新たにお力添えして下さる企業様が増えたことにより、一層素晴らしい会となりました。私達は次世代の担い手である子ども達を育てる為、日々奮闘しておりますが、こうした御理解が本当に励みになると共に、子ども達にも自分達を支えてくれている方々の存在を伝えることが出来、とても嬉しく思います。

5月28日の当日は天候にも恵まれバーベキューや流し素麺、ビンゴ大会等を行い、賑やかな時間を過ごすことが出来ました。久しぶりにおうぎ寮に遊びに来てくれた子たちもあり、思い出話に花が咲きます。在寮中は悩まされることも多く、幾度となくぶつかってきた子ども達も今では立派に成長し、それぞれの幸せを掴んでいる姿に、終始喜びを感じずにはられません。また、毎年招待の連絡をすることによって近況確認や新たに相談にのるきっかけとなり、参加卒業生に限らず繋がりを広げられる良い機会となっています。

彼らの人生はまだまだこれから!!この先、壁が立ちほだかることも多いことと思います。しかし、その壁を独りではなく一緒に超えていけるよう、おうぎ寮も子ども達と共に成長し、いつでも帰って来られる場所であり続けられるよう職員一同精進して参ります。



ななの会基金授与



永年、センターをご支援くださっているななの会様からの寄附を基に、青少年福祉センターに在籍又は退所した利用者で、大学や専門学校等へ進学する事が決定した者に対し、“進学支度一時金”として一人50,000円、更に卒業が決定した者に対し、“卒業祝い金”として一人50,000円を支給しています。学業費用面での支援を図ることを目的とする基金です。今年度は、在籍利用者1名への支給が決定し、3月22日に授与式が行われました。

当該利用者は、暁星学園にて約2年弱生活をしてきました。毎日1時間以上かけて通学をしながらも、ほとんど遅刻、欠席なく学校生活を送ってきました。また、様々な資格取得に積極的に努めたり、3年間継続した演劇部では副部長を務め部長のサポートさらには後輩の育成に勤しんで参りました。そして、大学の進学先の決め手となったのは、担任教諭との出会いからでした。4年制大学に行きたい気持ちはありましたが、資金面で断念せざるを得ませんでした。そこで、担任教諭の母校であった、4年制の通信制大学に進学することで、将来の夢である国語教諭になるための道を踏み出すことが出来ました。学園を退所後は、同法人内でありま清周寮での生活をする事が決定しています。

ななの会様を初め、たくさんの方々からの支えならびにご厚意があつてこそその、夢に向けた第一歩であると、感じています。感謝の気持ちを忘れずに、いま以上に“良い子”を育てられるよう、引き続き職員一同力をあわせて、支援をして参りたいと存じます。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

平成 28 年度 決算書 (資金収支計算書一部抜粋)

(単位:円)

	勘定科目	法人合計	本部	長谷場新宿寮	清周寮	おうぎ寮	暁星学園	あけの星学園	ノエル
経常収入	児童福祉事業収入	580,097,372	0	56,888,980	62,123,748	28,344,822	262,546,350	170,193,472	0
	障害福祉サービス事業収入	4,245,247	0	0	0	0	0	0	4,245,247
	寄附金収入	31,717,913	21,263,824	2,293,000	2,282,597	2,638,794	1,059,698	560,000	1,620,000
	雑収入 (受取利息含む)	17,809,262	6,408,337	2,173,821	1,309,805	368,158	4,808,166	2,679,716	61,259
	収入計	633,869,794	27,672,161	61,355,801	65,716,150	31,351,774	268,414,214	173,433,188	5,926,506
経常支出	人件費支出	389,379,540	20,039,067	37,054,431	38,176,507	23,345,302	164,792,856	100,816,729	5,154,648
	事務費支出	75,427,063	12,382,037	4,607,796	11,803,246	1,679,258	28,328,794	14,069,123	2,556,809
	事業費支出	83,779,201	0	7,773,641	6,320,083	2,568,783	40,493,577	26,012,292	610,825
	雑支出 (支払利息含む)	8,665,610	629,969	1,143,895	996,874	331,433	3,487,040	2,058,090	18,309
	支出計	557,251,414	33,051,073	50,579,763	57,296,710	27,924,776	237,102,267	142,956,234	8,340,591
	経常活動 資金収支差額	76,618,380	-5,378,912	10,776,038	8,419,440	3,426,998	31,311,947	30,476,954	-2,414,085

扇バザー開催

先日、7月8日(土)扇バザーが開催されました。お天気に恵まれ、大盛況で終わることができました。梅雨明け間近の暑さの中、ご来場いただいたお客様、手伝ってくださったボランティアの皆様、その後いかがでお過ごしでしょうか。

今回は1年半ぶりの扇バザー開催となり、法人のプロジェクトメンバーも新たに臨みました。ゲームコーナーでは、小さなお子様もおもちゃやお菓子の景品を持ちきれないほど抱えて満足そう。物品販売のコーナーでは、新たな試みで200円の衣類詰め放題を行いました。荷物を置きに帰っては度々ご来店して下さるお客様もいらっしゃり、楽しんでいただけたようです。食品コーナーでは、定番の焼きそばが大人気でした。私どもでは本格的な鉄板・ガス火を導入し、家庭とはひと味違う屋台の焼きそばを提供しております。まだ、召し上がったことのないお客様はぜひとも次回はお味見ください。

今回の売上は約25万円でした。施設を退所した利用者のアフターケアのために有効に活用させていただきます。ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

なお、今後は8月より毎月第一金曜日に物品販売を行います。引き続き、ご支援・協力をよろしくお願いいたします。



編集後記

扇バザーへは、たくさんの地域の方にご来場いただきまして、誠にありがとうございました。今年のバザーは、年2回を予定しており、次回は11月に開催予定です。日程が決まりましたら、当法人ホームページにて掲載させていただきますので、今回のバザーにご参加になれなかった方も、ぜひ次回のバザーに足をお運びいただけましたら幸いです。